

学校法人滋慶学園 東京ベルエポック美容専門学校
2024年度 学校関係者評価委員会 議事録

作成者（書記）：仁藤 都

日時 2024年5月16日（木）10：00～12：00

会場 東京ベルエポック美容専門学校
東京都江戸川区西葛西6-24-16 TEL03-5659-9090

出席者 学校関係者評価委員会 出席者

区分	氏名	所属	役職
学校関係者	浅川 潤一	千葉商科大学附属高等学校	学校長
業界関係者	関 久美	ピアス株式会社	アテンダントスタッフ人事部部長
保護者代表	山下 仁 山下 久英	美容師科2年生保護者	父 母
地域関係者	空田 真之 (欠席)	江戸川区葛西・西葛西メトロセンター会	代表取締役
卒業生代表	山根 純平	TYCHE GINZA (チューケーギンザ)	代表取締役

【学園・学校関係者】

古島 暉大 学校法人滋慶学園 常務理事
川戸 功一 東京ベルエポック美容専門学校 学校長
三井 真以子 東京ベルエポック美容専門学校 運営本部長
中村 聖之 東京ベルエポック美容専門学校 事務局長
阿部 健 東京ベルエポック美容専門学校 教務部長
武田 郁乃 東京ベルエポック美容専門学校 美容師学部長
仁藤 都 東京ベルエポック美容専門学校 ヘアメイク科学科長
毛利 農材 東京ベルエポック美容専門学校 広報センター長
関口 幸江 東京ベルエポック美容専門学校 学生支援センター長代理
中嶋 義彦 東京ベルエポック美容専門学校 学生支援センター（キャリア）

議題 <会議の概要> (進行：阿部)

1. 開式の挨拶
2. 滋慶学園ベルエポック美容グループについて
3. 評価委員のご紹介並びに学校側出席者の紹介
4. 本委員会の趣旨説明
5. 2023年度の自己評価項目と評価内容の説明
6. 2023年度学事報告

7. 2023年度自己評価内容報告 抜粋
8. 質疑応答・意見交換
9. 連絡事項
10. 開式の挨拶

議事

1、開会の挨拶（運営本部長 三井）

2、滋慶学園ベルエポック美容グループについて（運営本部長 三井）

皆さんおはようございます。

ベルエポックグループは5校あり、東京校・原宿校・福岡校・横浜校を担当している。
横浜校は5月末に校舎ができ2025年4月に開校予定。

今日は、東京ベルエポック美容専門学校の2023年度の学事報告をさせていただくが、掲げていた目標に対し未達である。要因の一つとして千葉・埼玉の18歳人口が減少している。東京都の美容学校がベルエポック軒並み苦戦している。一方横浜では18歳人口が減少しているが約10校のうち3校が定員充足している。改めて現場を意識したカリキュラムを研ぎ澄ませていく必要がある。

委員の皆様の忌憚のないご意見を今後の学校運営またはすぐにカリキュラムに反映させていく。どうぞよろしく願いいたします。

3. 評価委員のご紹介並びに学校側出席者の紹介

浅川潤一様、千葉商科大学附属高等学校の学校長。

関久美様、ピアス株式会社のアテンダントスタッフ人事部部長。

山下仁様、久英様、美容師科2年生保護者代表。

山根純平様、TYCHE GINZA（チュケーギンザ）の代表取締役。

職員自己紹介

中村、阿部、武田、仁藤、中岫、関口、仁藤、毛利

4、本委員会の趣旨説明（教務部長 阿部）

職業実践専門課程認定とは

【目的】

- ・高等教育における職業実践的な教育に特化した新たな枠組みづくりとして創設。
- ・専門学校における実践的な職業教育の質保証・向上
- ・実質的かつ継続的に、企業・関係施設・関連団体等と密接に連携して、最新の実務の知識・技術・技能を修得できる実践的な職業教育に取り組む学科であることを文部科学大臣が証するもの。

各学校が自らの教育活動等の成果や取組を不断に検証することにより、

- (1) 各学校が、自らの教育活動その他の学校運営について、組織的・継続的な改善を図ること。
- (2) 学校評価の実施・結果の公表により、適切に説明責任を果たすとともに保護者・地域住

民等から理解と参画を得て、その連携協力による学校づくりを進めること。

- (3) 設置者が、学校評価の結果に応じて、学校に対する支援や条件整備等の改善措置を講じることにより、教育水準の保証・向上を図ること。

学校紹介動画

5、2023年度の自己評価項目と評価内容の説明（事務局長 中村）

評価の実施方法

- (1) 各学校の教職員が行う評価 【自己評価】
(2) 保護者、地域住民等の学校関係者などにより構成された評価委員会が自己評価の結果について評価することを基本として行う評価【学校関係者評価】
(3) 学校と直接関係を有しない専門家等による客観的な評価 【第三評価】

●評価10項目

教育理念・目的・育成人材像、学校運営、教育活動、学修成果、学生支援
教育環境、学生の募集と受け入れ、財務、法令等の遵守、社会貢献・地域貢献

●評価をいただいた結果、職業実践専門課程の承認

文部科学省告示第133号平成25年8月30日

目的：職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成することを目的として専攻分野における実務に関する知識、技術について組織的な教育を行うものを文部科学大臣が認定

6、2023年度学事報告（事務局長 中村他）

(1) 全体報告

東京ベルエポック美容専門学校は美容に関する高い専門技術、知識、情報力、感性、創造力、コミュニケーション力を持った「美のコーディネーター」を育成します。

本校は最新の美容・ファッションを一人ひとりに提供する学校として業界と提携した最新の教育プログラムを展開するとともにセルフプロデュース力を備えた美容のプロを養成する教育機関として専門教育と現場実習、産学連携プログラムを強化している。

7、2023年度自己評価内容報告 抜粋

(1) 教育理念・目的・育成人材像 中村

建学の理念(実学教育、人間教育、国際教育)・4つの信頼(学生・保護者、産業界、高校、地域)を軸に職業人教育を行っている。実践的な授業を通して実学教育、人間教育、国際教育を実施している。また最新の美容教育をコンセプトに学生、保護者、産業界からの信頼を獲得する運営。学科養成目的を設定し卒業した3年後の目標、卒業した時の目標も明確にして学校運営をしている。

教育課程編成委員会で頂いた業界からの意見やアドバイスをカリキュラムに反映しより業界に即した人材の育成に力を入れている。議事録の作成をしている。

(2) 学校運営 中村

単年ごとに作成している事業計画をもとに運営計画を定めており、中身に関しては五カ年を見据えて収益、中期ビジョンを定めて運営をしている。

職員一人ひとりの目標(チーム目標、個人目標)を設定しており、各部署の会議や学校全体の会議の中で各担当を通じて成長の機会を設け育成できるよう心掛けている。

また在校生や卒業生を管理する情報システムを活用し、学校運営に生かしている。学生はシステムを活用し単位を把握や履修登録の確認をすることができる。

目的管理制度、評価対象者の目標・評価を実施している。

意思決定システムにより組織の運営、仕組みとルールに沿って業務決済をしている。委員会プロジェクトの設定している。

コミュニケーション、会議、委員会、情報システム、時間割作成、履修登録、等 WEB 確認できようとしている。学生ポータルサイトで求人検索ができる。就職システムでは、求人一覧、卒業生状況、在校生状況、就職活動状況を管理している。情報の一元化ができる。

(3) 教育活動 武田

業界で求められている技術や人材を各科でマーケティングしカリキュラムに反映している。入学した学生が2年後目指す職種で活躍できるようキャリアロードマップに照らし合わせて教育をしている。授業や TOP ゼミ、現場実習などを通じ人間形成を促すプログラムを行っている。

卒業後、キャリア開発段階では現場に出てから迷いが乗じる場合がある。キャリアセンターを通じて卒業生に向けた支援を全学科行っている。

授業を教える教員の質の向上を目的とした授業アンケートを定期的実施している。

集計したデータをもとに講師の先生へフィードバックを行い、授業の質の向上を行っている。

評価は試験、小テスト、課題をもとに評価をしている。GPA 評価を行い何ができたのか明確に学生へ伝えている。

それぞれの科目ごとにシラバス、コマシラバスを作成し、学生が到達目標を授業ごとに理解し計画を立てたうえで、授業を行っている

資格指導体制として、国家試験対策センターを設置し新しい授業の学び方を提案し、学生個々の上達を確認しながら合格率に繋げている。2024年度からはオンデマンド授業を取り入れ学生が授自宅を受かれ、現状出席率は上がっている。今後、習熟度を定期的確認し授業に反映していく。

職員、講師の指導力向上の為定期的に研修を行っている。

(4) 学修成果 阿部

月別で内定シミュレーション(目標)をたてて、時期に応じた学生指導を心掛け、希望就職者においては100%内定を頂いている。毎年就職を希望しない学生がいる為、今後減らしていくことが課題である。

過去の採用試験報告書から試験内容を事前把握できるシステムを構築できている。

また学生はWEBサイトにより学校にきた求人を見る事が出来る。
卒業後進路支援システムにより状況の確認ができる。

(5) 学生支援 関口

学生支援の動画再生。

教育、就職、学費、健康面等、学内のみに関わらず学校資源を活用した一人ひとりに合わせた支援を行っている。

課外活動では葛西エリアの姉妹校と合同でサークル活動を行い学外のコミュニティーを作り学生たちが主体的に活動をしている。

(6) 教育環境 阿部

実践教育を行うため、サロン実習室、ブライダル実習室、ファッション実習室、フォトスタジオを整え、職業感をもって授業を行うことが出来ている。

修繕計画、予算運営、安全確保のための危機管理マニュアルの作成、防災訓練の実施をしている。

学外実習・インターンシップ・海外研修について

2023年度の国際教育実績

建学の理念に基づき、他国の歴史・文化・伝統などを知り、国際的な感性を養うと同時に、自国のことをより認識し、国際的な視野を持った職業人を養成する。

- ① 最新の情報と技術をもとに新たな課題を発見し自己の将来像を確立する。
- ② 国際教育の一環として外国話でのコミュニケーションを取る。
- ③ 集団生活による規則を守り、協調性と団結力を養う。
- ④ 海外の文化に触れ、国際的な感性を身につける。

また産学連携実習を行う事で、業界と直結した教育を行うことが出来ている。

(7) 学生募集と受け入れ 毛利

2023年度は目標が未達である。産学連携『業界とともに学び成長していく』ということをお大切にしており、近年できることが増えたことで評価されていた。入学者が減少した要因としては、顧客である千葉エリア、地方エリアのうち千葉県からの出願者が2割減した事があげられる。18歳人口が減っているとはいえ、選ばれなかったことが次年度に向けた課題である。

高等訪問では在校生の様子や卒業生の動向などの情報を訪問した際に報告を行うことで安心して送り出して頂けるよう心掛けている。

ホームページ、パンフレット、募集要項を作成し入学選考と面接試験内容、学費・諸費用等をホームページにてわかりやすく掲載している。

(8) 財務 中村

事業計画をもとに5カ年の収支予算を考えた上で、さらに良い環境を整えられるようにしている。財務報告書、監査報告書に関しては学校ホームページにて情報公開を行って健全な運

営を行っている。

(9) 法令等の遵守 中村

専修学校設置基準に基づいて毎年チェックを行っている。

個人情報保護に関しても台帳を基に第三者機関にも入って頂き管理している。

職員講師学生共にITリテラシーの講座を行った上でテストを行い、全問正解するまで実施している。自己点検自己評価を学校関係者評価委員より評価を頂き改善を図る。

(10) 社会貢献 阿部

学校の教育資源を活用し社会貢献として、全学科全学生による地域清掃を実施。

今年度はボランティア活動を積極的に行っていききたい。

8、質疑応答・意見交換

◇浅川学校長

- ・授業アンケートやルーブリック評価の導入など先進的な教育が素晴らしい。
ルーブリック評価について詳しく聞きたい。

武田：ルーブリック評価は5段階評価で実施。講師は同じフォーマットを使用しどこまでできたら何点なのか明確に記載した用紙を使用し、試験で作成した作品をもとにフィードバックまで行う。講師の評価をもとに学生は振り返り、自身の課題を見つけ取り組んでいく。

- ・サポートが必要な学生が高校でも増えている。対応を知りたい。

阿部：6割の学生が上京し一人暮らしをしている。また、通信制の高校出身者が多く登校習慣がない。合理的配慮が必要な学生も増えている為より専門的なサポートが必要になる。学園のスクールカウンセラーと連携や、年度初めにサポートアンケートを行い学生の状況を数値化し対応を行っている。

- ・高校訪問は千葉以外の高校に行っているか。どのように実施しているか。

毛利：年に一度学校の新しい入学案内を送っている。入学実績のある学校には千葉県以外にも時間の許す限り訪問し学生の在学中の様子や卒業後の活躍を伝えている。

◇山根様

- ・母校の良さは在学中から両親も含め感じていた。有名な美容師は大手の学校出身が多いように感じる。なにかカリキュラムに違いはあるか。

武田：他校は国家試験に合格することを目的に行っている学校も多いが、本校では国家試験に合格することだけでなく、入社後のキャリアで活かせる実用的な授業を入れていることが特徴である。その為、本校の卒業生はサロンに入社後、動機に比べ早期デビューができる。

◇関様

- ・ 他校ではクラス替えをしない、担任を一人だけではなく複数設置などコミュニケーションが取りやすい環境にする取り組みを実施している。何かサポートをしているか。

阿部：担任制を取っている。美容師科は8割以上、美容師科以外は7割以上の出席が進級・卒業に必要。単位の重要性は授業を通じて伝えていますが診断書があり電車に乗ることができず登校困難の学生もいる。

仁藤：クラス替えの有無は毎年悩んでいるが、学生が目指す職種は接客業であり、新しい環境に適応しなくてはならない為、クラス替えを毎年実施している。学生へ負荷がかかる代わりに毎週席替えを行いクラス全員と関われる環境を提供している。

- ・ 入学前と後で目指す職業へのギャップを感じる学生はどうサポートしているか

中村：毎年学生へサポートアンケートを実施し、進路変更やカウンセラーの希望など調査を行い学校全体でサポートをしている。

- ・ メンタルの弱い学生が多い。

三井：ベルグループ全体でも近年は美容師科の退学が多い。理由はメンタルと人間関係が多く、精神的なサポートは専門家ではないためカウンセラーを入れサポートしている。職員は目的意識喪失による大学を防ぐために、『楽しい授業』を行い楽しいから勉強したいと思う授業をブラッシュアップして提供できるよう取り組んでいる。

- ・ 新しい取り組みとして美容師免許を9月に取得する方を4月に採用し、有給を使い月に数日学校へ通うことが可能になった。就職しながら学校に通う事例はあるか。

仁藤：美容師免許を通信課程で取得する学生の大多数は就職し、仕事と学校を両立させている。学校に通う頻度は自分で決めることができるので、休日を利用し無理なく通うことができる。

◇山下様

- ・ 雑貨で勤務し店頭でシャンプーやスタイリング剤を取り扱うことをきっかけに美容師との関わりが増え大変なイメージだった。取り組みを聞いて安心して通わせることができる。

9、閉会挨拶（阿部）

本日はご多忙の中誠に有難うございました。

業界の方々に安心して人材を輩出できるようより改善に努めてまいります。

—以上—